

# 山梨日日新聞

## 富士からFujiへ

第5部 町づくり ④

世界文化遺産

25

富士山が世界文化遺産に登録され、富士北麓地域も国際的観光地にふさわしい町づくりが求められている。国籍を問わず多くの観光客を受け入れていくためにはどのような点への配慮が必要で、民間と行政はどう関わり合っていくべきなのか。識者に考え方を聞いた。

### 都留文大教授 渡辺 豊博さん



わたなべ・とよひろさん  
都留文科大学文学部社会学部専任教授。NPO法人「わたり」の代表理事。静岡県三島市生まれ。環境再生やまちづくりに取り組む。63歳。

## 「点」から「面」の振興策を

「町づくりを進める上での注意点は、

「行政は善くも悪くも画一的で平等なプランを作りがち。しかし100人に1万円ずつ配るようなやり方では大きな変化は望めない。まずは1点に集中投資し、点から線、面へとつなげる町づくりが必要だ。そのためにはNPO法人など民間団体の協力は欠かせない」

「行政は善くも悪くも画一的で平等なプランを作りがち。しかし100人に1万円ずつ配るようなやり方では大きな変化は望めない。まずは1点に集中投資し、点から線、面へとつなげる町づくりが必要だ。そのためにはNPO法人など民間団体の協力は欠かせない」

「民間団体の役割は、特にNPO法人は市民、行政、企業をつなぐ仲介役になる。住民はどう関わるべきか。検討会で住民や識者から意見が出ても、行政はくみ取り切れないことも多い。どの自治体も財政難の今、例えば公園やトイレなど行政が整備したものを地域住民が維持管理する仕組みがあってもいい。その上で住民が管理者としての観点で何が必要かを意見すれば、より使う人の目線に合った街になる」

「まず『街の宝』が何かを見極めること。街の一角の再生がやがて観光振興につながる。町づくりのコーディネーターは行政の中にもいい。行政を知り尽くしているからこそできる提案もある。人材育成に努めてほしい」

「富士からFujiへ」(おわり)  
第5部は、三井将也、清水悠希、手塚美菜子、雨宮文貴が担当しました